

中野セントラルパークサウス

NAKANO CENTRAL PARK SOUTH

No. 05-27-2013作成
新築/まちづくり/外構・景観
事務所/飲食/物販/集会場

発注者	中野駅前開発特定目的会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

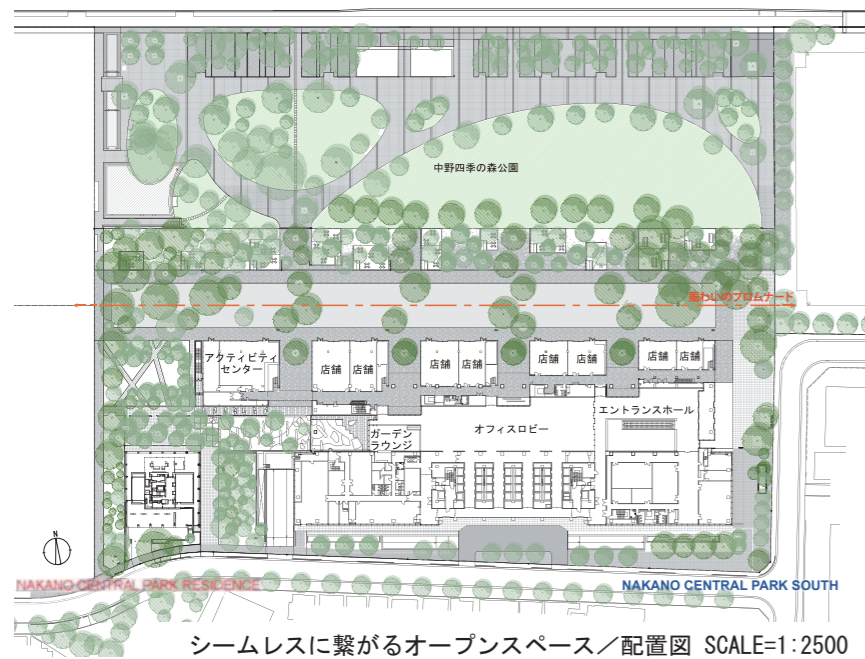
風景としての建築/都市公園と共生するサスティナブルタワー



伸びやかな水平ラインによる北面ファサードを公園越しに見る



2つの表情を持つ東面ファサード



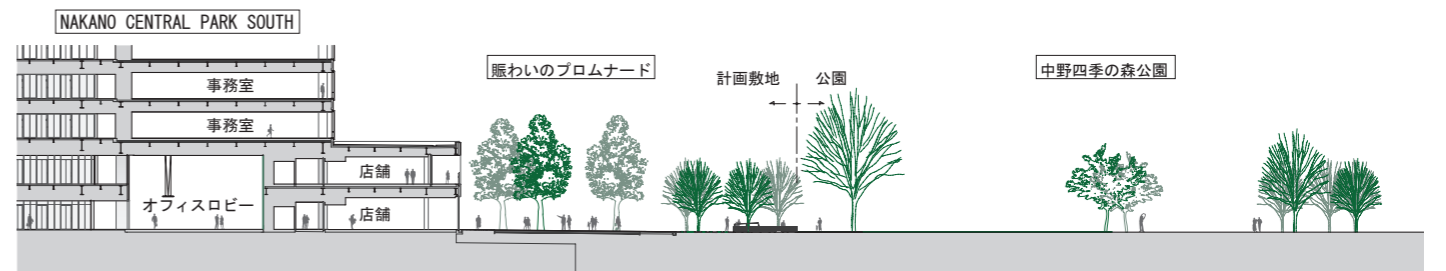
シームレスに繋がるオープンスペース/配置図 SCALE=1:2500

風景としての建築

JR中野駅北口に広がる警察大学校等跡地の再開発により既存の豊かな緑を生かした新たな公園都市が生まれた。その中心の「中野四季の森公園」に沿って建つ「NAKANO CENTRAL PARK SOUTH」は、日本最大級のメガフロアオフィスと低層部に分節化された商業施設、コンベンションホールを持つ複合施設である。「人が輝く公園都市」をメインコンセプトに掲げ、都市公園の中に建つ価値の最大化を目指した。公園と建築の重層的な関係を築きつつシームレスに繋げることで開放的な空間を構成し、新たな都市空間の形成に寄与すると共に快適なオープンスペースに包まれた豊かなオフィス環境を創出している。更に新たな都市景観を形成する上で、ヒューマンスケールの街並みの中に建つ巨大な建築の姿をそれらの背景として捉え、柔らかさを感じさせつつ統一された秩序のもとで風景としての建築を追求している。



自然が内部化されたオフィスロビー 建築と公園が一体となった賑わい空間

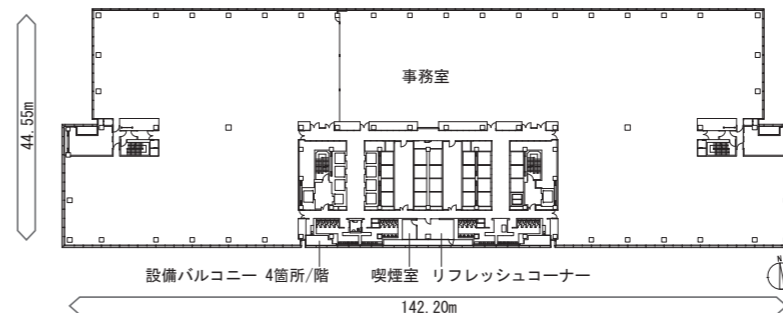


低層部断面図

緑と繋がるロビー空間/メガフロアオフィス

公園と巨大な建築の関係性を構築していく上で、公園と一体化されたオープンスペースを最大限確保するように全体を南側に配置し、ボリュームを段階的にセットバックすることで公園に対する日照や風等の環境に配慮している。北側の柔らかな自然光が入り、公園の緑を望むオフィスロビーは、テラコッタルーバーや蛇紋石など繊細さと力強さを併せ持つデザインと技術でインテグレートされている。新開発の自然

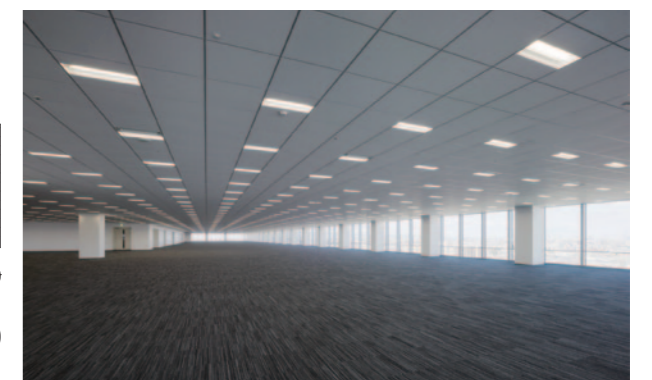
換気システムによって季節の移ろいを感じられる庭園を望むラウンジなどの快適性を高め、BCP対応の一環として非空調時のエントランスロビーの利用も想定している。専有面積約5,050㎡のメガフロアオフィスは都内屈指の規模を誇る。眼下に広がる都市公園への眺望を最大限確保しつつ、自然換気の採用や調光システム、空調増設対応、コアの分散配置による効率的な避難計画、局所的な過密度、ヘビーユース対応等、快適性の確保と共に多様化するテナント要望に対応可能な計画としている。



基準階平面図 SCALE=1:1500

設計担当者

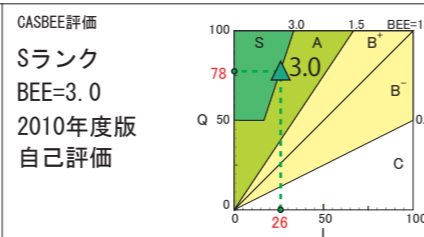
統括：北典夫/建築：石原大世、鹿田尚幸、小川一人、土田耕太郎、大橋隆男、横枝潤一
/構造：齋藤一、黒川泰嗣、佐野公俊、大島穰/設備：吉田貢、横山淳一、山本健、久良知亜以子



フレキシビリティの最大化を図るメガフロアオフィス

建物データ	
所在地	東京都中野区
竣工年	2012年
敷地面積	23,835㎡
延床面積	151,523㎡
構造	地上:S造(柱CFT)、地下:RC造一部SRC造
階数	地下1階、地上22階

省エネルギー性能	
PAL削減	30%
ERR (CASBEE準拠)	40%
LCCO2削減	23%



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (既存樹木保全、屋上緑化)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (公園に配慮した建物配置)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (公園と一体化された外構)
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制 (PAL性能向上、Low-Eガラス)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然換気システム、太陽光発電)
- LR2. 1. 水資源保護 (雨水利用、雑排水再利用)